

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回戸田市環境審議会
開催日時	令和5年10月12日(木)午前10時00分～午前11時40分
開催場所	本庁舎7階 第5委員会室
議 題	(1) 戸田市環境基本計画2021の中間見直しについて (2) その他
会議結果	以下議事録のとおり

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 会長及び副会長の選任 委員の互選により会長が飛田委員、副会長が藤野委員に決定。</p> <p>4. 諮問 香林部長から、飛田会長に諮問文を手渡し。</p> <p>5. 議題（議長：飛田会長） (1) 「戸田環境基本計画 2021 の中間見直し」について 地球温暖化について 資料 に沿って説明 現行の戸田市環境基本計画 2021 について 資料 に沿って説明 戸田市環境基本計画 2021 中間見直しについて 資料、参考資料 -1、-2 に沿って説明 市民・事業者アンケート結果について 資料 に沿って説明 [誤記の訂正] 1) 4 ページ (2) 「 b.地球温暖化防止・脱炭素への考え方とその理由について」の地球温暖化防止・脱炭素に取り組むことが必要な理由について、「知っており、内容も理解している」「電気料金や燃料費等のコスト削減」に訂正。 計画見直しのスケジュールについて 資料 に沿って説明</p>
会長	(質疑等) 説明事項で何か意見や質問はあるか。
会長	資料 「現行の戸田市環境基本計画 2021 について」の基本目標 1.2 及び重点プロジェクト(1)(2)が見直しのポイントになる。また、国及び県の動向を受け、戸田市として方針を合わせていくということによいか。
事務局	その通りである。
会長	今後のスケジュールを見ると、次回の会議までに素案が提示され、次回審議することとなるため、重要な会議となる。
委員	資料 10 ページ「戸田市の動き」に記載の、戸田市気候変動適応センター設置とは、どのような事業を行うのか、いつ頃設置されるのか伺いたい。

事務局	戸田市気候変動適応センターは、令和3年4月に埼玉県と共同で設置した。気候変動（異常気象等）に関する情報収集や情報提供等、市HPを通じて行っている。また、他自治体との取り組み等の共有も行っている。とだ環境フェアにおいても、当センターについて周知している。
委員	線状降水帯は、一般的に海水の温度が上がる事で発生すると言われているが、気象庁としてその原因を把握しているものの、具体的な発生時期等の発表はできないとされている。戸田市として、そういった詳しい情報を今後どのように把握し、周知されるのか。
事務局	戸田市として、独自の研究機関を設けているわけではないので、国で明確になっていない情報までは把握できないが、国・県の気候変動適応センターとも密に連携をとって情報発信していきたい。
会長	次回、素案の策定のヒントとなるような建設的な意見はあるか。
委員	参考資料には「2050年ゼロカーボンシティ」とあるが、「戸田市環境基本計画2021」の8ページには、「カーボンニュートラル」という表記になっている。この使い分けは何か。
事務局	両者の、吸収量と排出量を相殺してゼロを目指すという意味は基本的には同じであるが、表現の仕方については、混乱を招くため、統一や使い分けをしていきたい。全国的に自治体が宣言する際は、ゼロカーボンシティという表現を使っている自治体が多い現状である。
会長	両者はほとんど同じ意味である。ゼロカーボンシティの宣言については、現在1000近い自治体が行っており、遅いくらいである。早く宣言をした方が良いと思う。
委員	戸田に引っ越してきて2年半、一番感じることは、川が汚いことである。散歩などをしていると、個人宅から直に生活排水が流れているのを見る。汚水の排水システムがどのようになっているか教えてほしい。
事務局	戸田市は、基本的に下水道を整備しており、東側の3分の1は合流式（雨水と汚水をまとめて下水道に流す方法）で整備している。西側の3分の2は分流式（汚水のみを水循環センターに運び処理をする方法）で整備している。一部戸田駅付近で区画整理を進めている場所の中には、下水道が整備されていない地区があるが、宅内の浄化槽で処理した水を流している場所もある。その場合、個人で管理することが原則となるが、中には適切に管理がされず汚れたまま流している家があり、それが臭い原因となっている可能性がある。将来的には、下水道を100%整備する事を目標としている。
副会長	「戸田市環境基本計画2021」の79ページに、下水道整備普及率目標が96.7%とある。それと比較して、BOD環境基準達成率が38%と低くなっている。国の一級河川では約96%の達成率となっているが、それと比較すると低いように感じる。その理由は何か。

事務局	年4回測った結果を年度の平均値として算出しているが、測定している際の水質の状況にも影響されてしまい、この値となっている。
副会長	国の測定方法に則るのであれば、本来は月1回測定されるべきものであるが、戸田市の測定方法が国と異なるのであれば、それを明記しないと驚かれる数値であると思う。
委員	資料の基本目標に「ごみ出しの適正化」とあるが、生ごみの水切りを徹底することはとても大事だと思う。ごみ収集所を見ると、水が含まれたごみが見受けられる。また、資源ごみの捨て方の周知徹底も図ってほしい。また、粗大ごみ券の名称を資源リサイクルチケットに変更したら良いと思う。
事務局	生ごみに水分が含まれていると、重量が大きくなってしまい、ごみ処理の際に火力を弱めてしまう原因となるため、周知を図っていききたい。雑紙の分別についても、資源を循環させるため、徹底していききたい。粗大ごみ収集券の名称については、現名称が馴染んでいることもあるため、慎重に検討していききたい。
委員	家庭や事業所で多く所有されているエアコンの冷媒について、戸田市環境基本計画の中では触れられていない。温暖化係数の低いエアコン機器も販売されているため、そのような機器を購入した際には積極的に補助金を交付してもらえると、温室効果ガスの削減に繋がると考える。
事務局	省エネ家電等への積極的な交換を推進するとともに、買換えの際の機器の廃棄方法については、市民や廃棄事業者に対して適切に対応するよう周知徹底したい。また、機器買換えに対する補助金なども検討していききたい。
委員	一般的に省エネと謳われている機器でも、使われている冷媒はさまざまであり、市民からすると分かりづらいことがある。そういう点も理解できるような周知の内容になっているとよいかと思う。
事務局	参考とさせていただく。
委員	以前、EM培養液の河川浄化に関する取り組みがあったかと思うが、今はどうなのか。
委員	EM培養液の取組に関しては、ごみ処理の取組で現在も行っているはずだ。
委員	効果がある内容なのであれば、もっと積極的に周知徹底をして頂きたい。
事務局	EM培養液を活用した河川への取り組みは把握していないが、家庭から出る生ごみにEM培養液を混ぜ、堆肥にする活動をリサイクルフラワーセンターで実施している。
委員	自分たちの環境への取り組みがどのくらい効果があるかを数値化して目に

	見えて分かったとやりがいがあると思う。そのための良い方法はないか。
事務局	規模は小さくなってしまいが、日常生活の中で、こういった取り組みをすることでこれだけ効果がある、というような内容を計画の中で掲載し、各個人がどういう事ができるのか、目に見えて分かるようにしていきたい。
会長	出来るだけ数値化しないと、達成感もなく、インセンティブも湧かない。これを導入すれば、これだけ削減できるといったような効果等を計画に盛り込むと良いかと思う。
委員	今回会議に出席し、市職員が多岐にわたる取り組みをしていることを知ったが、それがなかなか市民に伝わっていないと感じる。市民が環境問題に対して、興味を持ち、市民に出来ることを実行してもらおうと努めても、微力だと感じ諦めてしまうこともある。効果を明確に提示する等、市民への周知にも力を入れてほしい。
事務局	環境への取り組みを市民一人ひとりに浸透させることはハードルが高く、課題であると感じている。もっと伝わりやすくするために、家庭での省エネ効果だけではなくどのくらい家計の節約となるか等のお得感などを示していきたい。また、市民のモチベーションを上げるためにどのようにしていけばよいか、委員の皆様の意見も取り入れながら検討していきたい。
副会長	現行の戸田市環境基本計画の市長の挨拶文の中には、未来を軸として考える「バックカスティング」と書かれているが、現在を軸として考える「フォアカスティング」とのギャップが必ず生じてくる。その差をどのように埋めるかが課題であるが、どの市町村も実際に実施している内容は「フォアカスティング」に基づくものであり、「バックカスティング」の考え方である「ここをこうしなければいけない、だからこれをやる」というような取り組みはなかなか見られない。また本日は、CO2に関する事が中心であったが、資料 11ページにある「生物多様性」に関する取り組み（生物を保全、再生、活用し経済を循環させること）があまり浸透していないように感じるため、取り組みを強化してほしい。資料 3ページにある「環境への意識を高める場の提供」の関するアンケート結果について、 と に矛盾しているように感じた。最後に、この会議は幅広い業界から出席者が集まっているため、全て国や県の動向に合わせて取り組んでいくのではなく、この会議の中で戸田市として独自に出来ることを検討し、新たな取り組みを行っていければよいと思う。
会長	資料の中に、低炭素という表記が見受けられるが、時代遅れであり、現在は脱炭素（カーボンニュートラル）が一般的であるため、統一した方がよい。また、資料 アンケート結果27ページで、「事業者にとってのメリットが分からない」という回答が多くあるが、今後は脱炭素化への取り組みをするかしないかが、企業への評価や投資の基準となる時代となるため、そこが上手く伝わると事業者の協力を得やすくなるのではないかと思う。緩和策と適応策については、適応策は熱中症や自然災害等身近な問題であるため定着されやすいが、緩和策はなかなか実感が湧かず浸透されないため、今後の課題であると考えている。11ページの満足度と重要度のグラフを見ると、「再生可能エネルギー・省エネルギー

事務局	<p>の普及」について、どちらも重要度が低いという結果が出ているため、補助金等の充実にも力を入れてほしい。</p> <p>6 . 閉会 次回の開催について 次回は、11月30日（木）を予定しており、詳細は書面で送付する。</p> <p>以上をもって本日の審議会を終了する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--